

カトリック瀬戸教会広報



2024年5月号

発行 毎月第一日曜日

〒483-0983 瀬戸市苗場町 66

カトリック瀬戸教会

(0561)82-7340

カトリック瀬戸教会

検索

まっすぐな心で神さまへ

主任司祭 ニコラス・スワイアテック

107年前に聖母マリアはポルトガルのファティマで3人の子どもに現れました。第一次世界大戦は終わりましたが、第二次大戦が近づきつつありました。戦争を避けるために、また平和をいただくために、聖母は謙遜で純粋な子どもたちの助けを求めました。子どもたちは大人のように冷笑する心を持っていません。子どもたちはイエスを知り愛することができます。3人の子どもたちは聖母の導きにより、取り次ぎの祈りを習い、罪人の改心と平和のために自分自身を犠牲として捧げました。聖母は子どもたちに勧めました。犠牲を捧げるときに言いなさい。「わたしのイエスよ、この犠牲はあなたへの愛のため、また罪人の改心のため、そして聖母マリアのけがれないみ心に対して、犯された罪の償いのためです。」またイエスは次のように言われました。「子どもたちを私のところに来させなさい。妨げではない。神の国はこのような子どもたちのものである。はっきり言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ決してそこに入ることはできない。」(マルコ 10:14-15) ファティマの子どもたちは、神秘主義者でした。イエスと隣人を愛していました。その生き方は人間の生涯を変え、神に捧げ、癒しの恵みを受ける神秘です。子どもたちは遊びのゲームを止めて、熱心に祈って罪人の改心のために犠牲を捧げました。2人の兄弟フランシスコとジャンタは若くして死にましたが、2人とも聖人としての生き方の素晴らしい手本を教えてくださいました。列聖式は2017年5月13日でした。

アビラの聖テレジアは次のように教えています。「神さまとつな

がる道はひとつしかありません。それは祈りの道です。誰かあなたに他の道を示すなら、あなたを欺くことになります。」祈りによってわたしたちは、霊と心を神に捧げ神に願います。神は謙遜な人の祈りを聞き入れてくださいます。神の前で私たちは乞食です。真の祈りは口先だけではなく、体全体で祈ります。しかし、聖書の言葉によって心が祈っています。心が神から遠ければその祈りは無駄になります。新約の祈りとは、神の子らと限りないいつくしみの深い御父、その御子イエス・キリスト。そして聖霊とのいのちに満ちた交わりのことです。神の国の恵みとは、「人間の全精神が三位一体と全くひとつに結ばれること」です。(カテキズム) 祈りを始める前に、自分の洗礼と三位一体との関係を思い出します。神さまの命は私たちの内にあります。しかしわたしたちは神さまの恵みに応えなければなりません。すなわち祈りの内に神さまを探すことです。愛の業として神さまのために日々の一定の決まった時間を大切にします。それは日々15分間(1日の1%ですが)イエスをもっと深く愛するために静かに、心の中で主の名を唱え続けていると主の存在に気づきます。イエス様はおっしゃいました。「あなた方は起ころうとしているこれら全てのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。」(ルカ 21:36)「師と結ばれた弟子たちの祈りは、一つの戦いであり、目覚めて、祈ってこそ誘惑に陥らずにすむのです。」(2612.CCE)「イエスの聖なる名を呼び求める絶え間ない祈り続けることが最も簡単な方法です。それはへりくだったひたむきな心が繰り返す祈りです」

(2668.CCE)「くどくどと述べたてず、(マタイ 6:7) み言葉を守り、忍耐して実を結ぶ、それは『いつでも』できる祈りです。なぜなら、他のことに心を奪われることなく、キリスト・イエスにおいて全行為を生かし、変容させてくれる神を愛することにのみ、心を集中させる祈りだからです。信仰によってイエス様に願っていた人々はいつも主の返事をいただきました。現在、主のご復活後に、主の名によって願い求めるならさらに豊かに受けるのではないのでしょうか。イエスの聖なるみ名によって毎日祈りましょう。特に「イエスの祈り」を唱えましょう。「主イエス・キリスト、神の子、罪人のわたしをあわれんでください。」